

第 2 学年 C 組 社会科学学習指導案

日 時 令和 5 年 11 月 4 日（土）第 2 限
場 所 第 2 学年 C 組教室（教室棟 2 階）
指導者 萩森 喬至

1. 主題（単元・題材）名 「関東地方」

2. 目標

- (1) 関東地方の自然環境や産業の特色を，人口の集中との関わりに着目し，地図や統計，分布図などから読み取るとともに，人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解する。〔知識及び技能〕
- (2) 関東地方に人口が集中することの意味や影響を，関東地方の持続可能性という視点から多面的・多角的に考察し，表現する。〔思考力，判断力，表現力等〕
- (3) 関東地方について，よりよい社会の実現を視野に，関東地方の持続可能性という視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に追及する。〔学びに向かう力，人間性等〕

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力
・関東地方の自然環境や産業の特色を，人口の集中との関わりに着目し，地図や統計，分布図などから読み取るとともに，人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解している。	・関東地方に人口が集中することの意味や影響を，関東地方の持続可能性という視点から多面的・多角的に考察し，表現している。	・関東地方について，よりよい社会の実現を視野に，関東地方の持続可能性という視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に追及している。

4. STEP との関わり

(1) 社会科としてのとらえ

社会科では，地理的分野・歴史的分野においては世界や地域を考えていく中で，環境の視点から現地の人々の思いを通して事象を具体的に捉えていくことができる。また，公害などの過去の事例をもとに SDGs に対する考えを深めていくことができる。なお，地球規模や世界規模の大きな社会的課題を解決するためには，スケールを絞りその中の課題を 1 つずつ解決していくことが必要となる。課題に応じてスケールを絞ったり広げたりする地理的な見方・考え方は，STEP で研究課題を探究していく上で大いにいかされると考える。これらの学習してきた内容や社会科的な見方・考え方を STEP での取り組みに活用したり，STEP で研究したこと・研究時に学んだことを授業に発揮したりしていくことを期待したい。

地理的分野では，平成 29 年版学習指導要領において，地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図，景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導する

こと。また、地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用することなどが求められている。これらは STEP の学習での研究に向けた姿勢と双方向に影響させることができると考える。

(2) 育成したい資質・能力について

これまでも社会科では【根拠】を基に自分の意見をまとめ、発表などを通して【伝達・発信】することを大切に、授業づくりをしてきている。本単元でも、【根拠】【じっくり・いろいろ】【アイデア】【問題発見】【問題解決】【振り返り】【伝達・発信】の7つの資質・能力は各学習活動を通して育成を図っていく。それぞれの時間で育成する資質・能力については「7. 指導について」で詳細に記述していく。また、【伝達・発信】【協働】は単元全体においてグループ活動や全体交流を通して育成を図っていく。

5. 単元について

本単元は、平成 29 年に告示された新学習指導要領の地理的分野「(2) 内容 C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域」に対応し、設定した。学習指導要領の解説では、「地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること。」と記されている。そこで、地域という地理的な見方・考え方に着目して関東地方をとらえると、関東地方は、日本で最も人口が集中している地域といえる。人口が集中している地域の一般的共通性は、平野部であること（自然環境）、産業基盤が整っていること（産業）、他地域や他国とのつながりである交通網が発達していること（交通）である。これらは、これまでの日本の諸地域の学習においてすでに学習しており、その学習で得られた知識を使って関東地方をとらえた場合、東京大都市圏への人口集中の要因は理解しやすい。関東地方としての地域的特殊性は、人口集中を基盤とした第 3 次産業が発達していること（産業）である。

また、東京大都市圏（1 都 3 県）と北関東 3 県および東京都に属している離島から成り、位置や分布という見方・考え方で見れば、不均衡な人口分布とその原因である人口の社会増減が著しい地域である。東京大都市圏への人口集中が目立ち、他方で山間部や離島の人口減少が顕著である。また、東京大都市圏だけを見ても、人口分布の不均衡さは見られ、人口が集中している地域と空洞化が進んでいる地域が混在している。我が国の人口における最大の課題は、急速な少子高齢化である。東京大都市圏においても例外ではなく、人口が集中しているからこそ、より深刻な問題として受け止める必要がある。すでに表面化している課題として都市部での渋滞や地価の高騰などがある。このように地域、位置や分布の見方・考え方からとらえることで、関東地方の特色を多面的・多角的に考察できると考える。

さらに、課題解決のために空間的相互依存作用の見方・考え方から、東京大都市圏以外の地域への影響などを考慮していくことで、より持続可能な関東地方に迫ることができる内容とした。

6. 指導について

本単元では、関東地方の特色を人口・都市・村落を中核の視点として学習する。関東地方の人口問題として東京大都市圏の過密問題を取り上げるのではなく、東京大都市圏の人口増加に着目させ、その意味や影響を理解させたい。東京大都市圏の人口増加がもたらす社会問題が、結果として日本の人口減少に拍車をかけており、このことは地方の衰退を招くだけでなく、東京大都市圏自体に急速な高齢化などの

課題をもたらす。東京大都市圏の人口増加が関東地方全体や日本全体の持続可能性を低くすることにつながるという認識から「単元を貫く問い」を「持続可能な関東地方を実現させるには何が必要か。」と設定した。

第1時では、関東地方を概観し、自然の特徴の理解から人口の集中との関係に着目させることで【問題発見】を促す。その際、九州地方で学習した自然環境の理解をもとにした見方・考え方を活用したい。また、人々を集める求心力として第3次産業の比率の高さがあることにも気づかせたい。

第2時では、地価の高い関東地方で農業が盛んな理由を考えさせる。その【根拠】の1つとして東京大都市圏で暮らす人々の食料をまかなうという役割があることに気づかせる。また、消費する東京大都市圏と生産する北関東という構図が続くことは、「持続可能な関東地方」という視点から見た際、どうなのかということを【じっくり・いろいろ】と考えさせたい。

第3時では、「工場を出すならどこに出すか。」という問いに対して、自身の考えを【根拠】を持って述べさせる。その中で、実際の関東地方における工業地帯・地域の立地の変化とそれに伴う人口の移動は、「持続可能な関東地方」という視点から見た際、どうなのかということを【じっくり・いろいろ】と考えさせたい。

また、第2時と第3時を扱う際、中国・四国地方で学習した地域間のつながり（交通網の発達）で学習した見方・考え方をを用いて、東京大都市圏と北関東のつながり、東京大都市圏への人口集中と産業の発達の関係を、交通網の発達と関連づけて理解させたい。

第4時では、関東地方が抱える課題について考えさせる。これまでの3時間の学習で学んだことをいかしながら、関東地方が抱えている課題をあげさせ、その上で優先すべきものを【じっくり・いろいろ】考えさせる。その際、選んだ課題がなぜ他の課題より優先されるべきなのか、その【根拠】をワークシートに整理させた上で班やクラスでの交流を行う。その中で、人口や企業、物や情報が集中する東京大都市圏とそれ以外の関東地方という構図に気づかせたい。

本時では、東京大都市圏への一極集中をどうしていくべきか考えさせる。各自が【アイディア】を出しながら【問題解決】の方策を考えていく。各自の考えた解決策を学級で【伝達・発信】し合う中で、持続可能な関東地方の姿を模索させていきたい。さらに「東京大都市圏への一極集中を解消することが本当に持続可能な関東地方の実現につながるのか」ということを生徒に問い返す。そうすることで生徒に新たな視点をあたえ、その上でどういう形が持続可能な関東地方の形なのかと【じっくり・いろいろ】考えながら議論させたい。

第6時では、第5時の最後に考えて整理した「東京大都市圏への一極集中を解消することが本当に持続可能な関東地方の実現につながるのか」という問いに対する各自の意見を班や学級全体で交流しながら、「持続可能な関東地方のあり方」について【じっくり・いろいろ】と考えさせる。明確な結論を導き出すことは難しいと思われるが、各自が【協働】することで、課題の解決に向けて1つの方向性を示させる。その際、課題の解決には関東地方内での連携や、関東地方以外との連携した取組が必要となることにも気づかせ、考えるスケール（視点）が徐々に広がるように指導したい。また、広がった視点の先に、地元三重県の現状や課題とも照らし合わせながら考えさせていきたい。これらの活動を通して、改めて「持続可能な関東地方を実現させるには何が必要か？」という単元を貫く問いに【振り返り】、自身の考えをまとめさせる。

7. 指導と評価の計画（全6時間）

単元を貫く問い：持続可能な関東地方を実現させるには何が必要か？

時間	□ねらい ■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい 資質・能力
		知	思	態		
第1時	□東京大都市圏への人口集中に気づき，その背景や理由を追及する意識を持つ。 ■関東地方は本当に人が多いのか。	●		●	●振り返り	【発】
第2時	□農業が盛んに行われる理由と，東京大都市圏の人口の関係性について考える。 ■なぜ地価の高い関東地方で農業が盛んに行われているのか。	●	●		●問いに対する考え	【根】 【じ】
第3時	□工業地帯・地域の立地と人口の動きについて考える。 ■関東地方で自動車工場を出すならどこに出すか。	●	●		●問いに対する考え	【根】 【じ】
第4時	□関東地方が抱える課題をリストアップし，最も解決が優先されるべき課題を考える。 ■関東地方が最も解決を急ぐべき課題は何か。		●		●ワークシート	【じ】 【根】
第5時 (本時)	□東京大都市圏への一極集中の解決策を考える中で，「持続可能な関東地方」の実現に必要な視点に気づく。 ■東京大都市圏への一極集中をどうすればいいのだろうか。		●		●問いに対する考え	【ア】 【解】 【伝】 【じ】
第6時	□一極集中の解決策を考える中で，「持続可能な関東地方」の姿を模索する。 ■持続可能な関東地方を実現させるには何が必要か？		○	○	○振り返り	【じ】 【協】 【振】

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠 ⇒ 【根】，じっくり・いろいろ ⇒ 【じ】， アイディア ⇒ 【ア】

問題発見 ⇒ 【発】， 問題解決 ⇒ 【解】， 振り返り ⇒ 【振】

協働 ⇒ 【協】， 伝達・発信 ⇒ 【伝】

8. 本時の指導

(1) 目標

- ①東京大都市圏への一極集中の解決策を考える中で、より「持続可能な関東地方」を実現するための方法を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 指導計画（50 分）

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価	育成したい 資質・能力
1. 資料 1 より気づいたことを発表する。 <予想される発言> ・荷物を運んでいる ・引っ越し作業をしている ・地震火山部や大気海洋部とあるので、大学の引っ越しではないか。 など	○自由に出させたのち、気象庁移転による引っ越しの様子だったことを伝える。 ○資料 2 より三重県が移転先の候補だったことに気づかせる。 ○なぜ首都機能を移転させるのかを考えさせることで、東京大都市圏への一極集中の解消が目的の 1 つであることに気づかせ、主発問へとつなげる。	
【課題】 東京大都市圏への一極集中をどうすればいいのだろうか？		
2. 東京大都市圏への一極集中の解決策を考える。	○個人で考えさせた後、班で交流させる。	【ア】
3. 東京大都市圏への一極集中の解決策を学級全体で交流する。 <予想される発言> ・地方に働き口を増やす ・地方から東京大都市圏に出てきている人を返す。 ・地方から東京大都市圏に出てくるのを禁止する。 ・地方の町を発展させる。 ・東京の首都機能を分散する など	○ここでは解決策を 1 つでもたくさん出させることを最優先に考える。そのため、「どの立場の人から見た意見か」ということは重視しない。 ○出た意見を解消策と対応策に分類しながら黒板に整理する。 ○ある程度生徒が意見を出し切ったところで、「東京大都市圏への一極集中を解消することが本当に持続可能な関東地方の実現につながるのか」ということを問う。	【解】 【伝】
4. 東京大都市圏への一極集中の解消と持続可能な関東地方の実現について再考する。	○周囲の生徒同士で自由に話し合わせる。 ○時間的余裕があれば学級全体で交流させる。	【じ】

5. 4. で話し合ったことを踏まえて自身の考えを整理する。	◆再考した上での自身の考えをロイロノートで記入し提出させる（思）	【じ】
--------------------------------	----------------------------------	-----

<参考文献>

- (1) 文部科学省(2017),『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
- (2) 国立教育政策研究所教育課程センター(2020),『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』
- (3) 全国社会科教育学会（2022）『優れた社会科授業づくりハンドブック 型にはまらない多様な授業を創る』